

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	123人	算数	123人	理科	123人
第5学年	国語	139人	算数	139人	理科	139人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

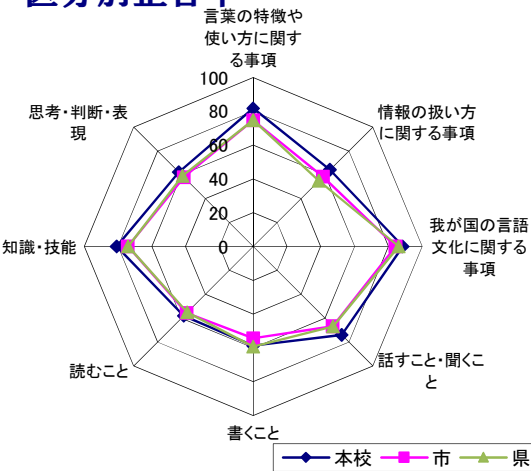
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.8	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	64.2	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	88.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	74.0	66.7	66.9
	書くこと	58.7	54.3	59.3
	読むこと	58.1	55.6	55.2
観点	知識・技能	80.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	62.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

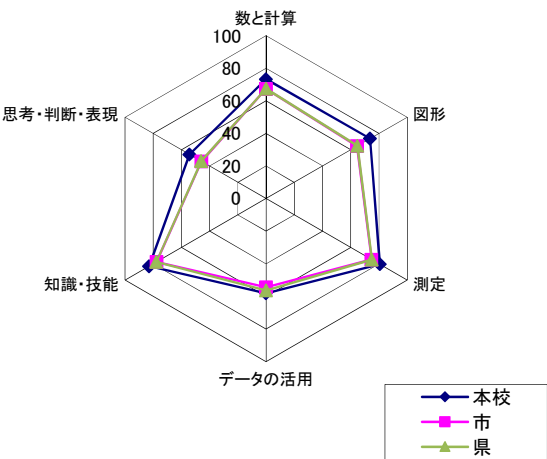
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は81.8%で、県平均と比べて7ポイント大きく上回る。 ○漢字を正しく読む問題では、ほとんどの児童が第3学年に配当されている漢字を正しく読むことができています。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題では正答率が59.4%のものもある。県平均と比べ、15.9ポイント大きく上回るものの、無回答児童は3～4%存在する。	・朝の学習や宿題等で継続的に漢字習得のための活動に取り組ませ、定着を図る。また、漢字練習帳や自主学習において部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作ったりするなど、児童がアウトプットする方法を工夫する。さらに、国語科以外の学習活動においても、正しい言葉や漢字を使うよう教科横断的な指導の充実を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は64.2%で、県平均と比べて9.2ポイント大きく上回る。 ○●国語辞典の使い方を理解し、例文の適切な意味を選択する問題では平均正答率は県平均を大きく上回る。しかし、約4割の児童が誤答である。	・国語科だけでなく、他教科や朝の学習においての意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など、基本事項について正しく理解できるよう定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は88.6%で県平均と比べて2.5ポイント上回る。 ○漢字がへんとつくりなどから構成されていることを理解している児童が多い。	・単元学習において漢字や言葉に触れる機会だけでなく、日常的に活用する場面を設定することで、理解の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は74.0%で、県平均と比べて7.1ポイント大きく上回る。 ○話合いの中心を捉えて話を聞いたり、自分の考えを理由を挙げながら話したりすることは、多くの児童ができています。 ●参加者の発言を基に、司会者の発言として適した内容を書く問題では、県平均より7.8ポイント上回るが、正答率は37.4%で無回答児童は11.4%だった。	・国語科で学習した「話し方」のスキルを常に意識できるようにする。相手の話を聞いて理解することや、司会者・参加者の立場に応じた発言の仕方(技能)の定着が不足していると考え。グループ等での話合い活動では、話し合う内容について共通認識できるよう観点を示すことで、論点がはっきりとした活動にするなどの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は58.7%であり、県平均と同程度である。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では県平均を大きく下回り、正答率は37.4%にとどまる。また、無解答率は25.2%と、県平均よりも5.9ポイント高い。さらに、指定された長さで文章を書けた児童の割合は6割にとどまった。	・国語科を含め、各教科等で「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。文章作成の際には、国語科の説明文で学習したことを想起させながら、つなぎ言葉の使い方や段落構成の作り方に慣れさせていくことで段落の役割を理解し、それらを活用する力を身に付ける指導の充実に努める。
読むこと	県平均と比べて2.9ポイント上回るが、平均正答率は58.1%にとどまる。 ●文章を読み、段落を前半と後半に分ける問題では13.8%と正答率自体も低く、県平均より0.8ポイント下回った。また、文章の内容を要約した文を選ぶ問題では、65.0%と県平均より3.7ポイント下回った。	・叙述を基に登場人物の気持ちを考える問題では8割以上の児童が正答しているが、叙述を基に、内容に適した文章を選択することに課題がある。そのため、主語・述語を意識し、文章内容を正しく読み取る活動が必要である。また、接続詞に着目した段落ごとの要点をまとめる活動を通して意味段落を捉え、文章全体を読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.3	67.3	67.4
	図形	73.7	64.5	64.7
	測定	80.5	74.7	74.9
	データの活用	58.1	54.4	56.4
観点	知識・技能	82.9	77.6	77.8
	思考・判断・表現	54.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

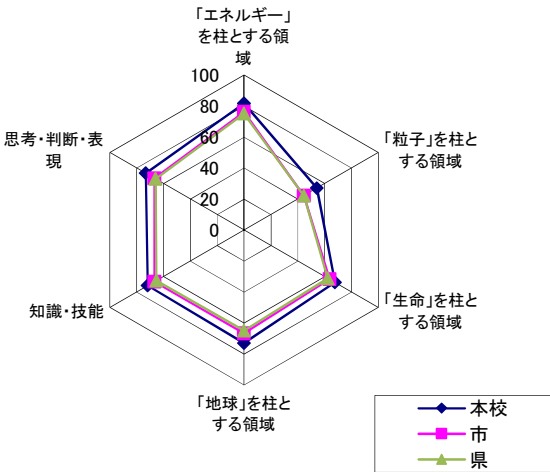
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は73.3%で、県平均と比べて5.9ポイント上回る。 ○2けた÷2けたの計算や同分母の真分数+真分数の計算では正確に計算することができている。ドリル学習等で計算練習に継続して取り組んでいる成果が見られる。 ●35×4の暗算の仕方を説明する問題では、県平均を上回るものの17.9%と正答率が低い。式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題については無解答率も高い。	・今後も基礎基本の定着を図るため、ドリル等を活用して計算練習を繰り返すようにする。 ・立式する際に、数直線や図を用いて式の意味や筆算の仕方を考え、説明する活動を取り入れることで基礎的な内容の確実な定着を図る。
図形	平均正答率は73.7%で、県平均を9ポイントと大きく上回る。 ○二等辺三角形を作図する問題では、正しく作図することができている。ICT機器を活用し、作図の方法が理解しやすいように指導した成果であると考えられる。 ●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形を作図することを説明する問題では、県平均を上回るものの正答率が低い。無解答率も高いことから、見方を変えて図形のかき方を考えることなどを苦手とする児童が多いことが考えられる。	・図形の作図に関して、単なる作図の技能だけでなく、どうしたらかけるようになるかという思考についてペアやグループ学習で練り合って考えるような活動を重視する。児童が取り組みたくなるような課題の設定が重要であるため、活動を工夫していく。 ・具体物やデジタル教材等を活用し、図形に対する理解を深めるための補助としたい。また、形の敷詰めやグループ分けなど具体物を操作する活動を通して、多面的な見方を育てるようにする。
測定	平均正答率は80.5%で、県平均を5.6ポイント上回る。 ○地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では県平均を5.5ポイント上回る。 ●はかりのめもりを読み取り、重さを答える問題では県平均を上回るが、正答率は56.9%と低い。	・児童の身近にある問題を取り上げたり、算数科だけでなく普段の生活の中で重さを量ったり、長さを測ったりする活動を行い、体験を通して実感的に捉える機会を設け、量感を豊かにする。 ・kmは100mの10個分という見方でとらえるなど、単位の考えをもとに量の大きさをとらえられるようにする。量が表す単位について理解を深め、今後学習する面積や体積についても関連で付けて考えられるようにする。
データの活用	平均正答率は58.1%で、県平均より1.7ポイントとやや上回る。 ○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では91.9%と正答率は高く、県平均を2.7ポイント上回る。 ●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題では、0.8ポイントやや上回るものの、正答率は24.4%とかなり低い。めもりのとり方によってデータの大小が分かりにくくなり、正しく捉えられていない児童が多いと考える。	・グラフの読み・かきの技能の習得にとどまらず、1めもりの大きさに着目したり、複数のグラフを組み合わせて読んだりすることから、グラフの特徴や良さについてしっかりと理解できるようにする。系統性を意識し、高学年で学習するその他のグラフについて見方の素地を養いたい。 ・算数科だけでなく、社会科や理科等の他教科でもグラフのデータを分析することを積極的にに行い、どう読み取ったか根拠を明確にして分かったことを相手に分かるように伝え表現する力を身に付けさせる。また、係活動など児童の身近なもので積極的にデータを整理するような活動を取り入れるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	81.7	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	54.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	67.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	72.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	71.7	66.8	65.4
	思考・判断・表現	73.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は81.7%で、県平均と比べて6.6ポイント上回る。 ○光はまっすぐ進むこと、磁石には鉄が引き付けられること、金属は電気を通すこと、大きい音は震え方が大きいことなどをよく理解している。 ●実験の結果を正しく表に記録したり、表から情報を読み取って考えたりすることに課題が見られる。	・実験や観察の結果をまとめる際に、既製の表に記録させるだけでなく、どういった形で結果を記録したらよいか（表にするのかグラフにするのか、どんな形の表にするのかなど）を考えさせる場面を取り入れる。 ・授業の中で資料（表やグラフ）から何が言えるかを自力で考えたり、話し合ったりする場面を取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は54.2%で、県平均と比べて9.7ポイントと大きく上回る。 ○体積が同じでも素材によって重さが違うことをよく理解している。 ●形や向き（人間の姿勢等）が変わっても重さが変わらないことを多くの児童が理解できていない。また、自分の考えの根拠を表現することに課題が見られる児童が多い。	・学習を進めていく上で、具体例を出して学習内容を日常の場面と関連付けさせるなどの工夫をして、生きて働く知識を身に付けられるようにする。 ・学習のまとめをする際に、学習内容を使って理由や考えた筋道等を自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は67.7%で、県平均と比べて5.4ポイント上回る。 ○植物のつくり、昆虫のつくり等についてよく理解している。 ●虫眼鏡の正しい使い方を多くの児童が理解できていない。また、正しい草丈の測り方や植物の育ち（順序）についての理解も不十分である。	・器具の使い方についてポイントを押さえて指導し、全員が使用したり使い方をチェックしたりする機会を確保するなどして、技能の定着を図る。 ・観察の仕方等を説明したり表を読み取ったりする際に、どこを指して言っているのかが分かりやすいように大型スクリーン等に掲示して指し示すなどの工夫をし、共通理解しやすくする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は72.9%で、県平均と比べて8ポイントと大きく上回る。 ○温度計の使い方や、かげのつき方をよく理解している。 ●太陽の動きやそれに伴うかげの位置の変化を半数近くの児童が理解できていない。	・基本的な学習内容について反復して覚えたり、体を使って動作化したり、実物を用いたりするなどの工夫をして、理解の定着を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストで間違えた問題について勉強している」と肯定的な回答をした児童は、(72.2%)で7割を超え、市の平均(63.4%)よりも8.8ポイントと大きく上回っている。間違えをしっかりと正すことができる児童が多いことがうかがえる。また、「家や、学校や塾での決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と肯定的な回答をした児童は(77.0%)で市の平均(58.5%)よりも18.5ポイントと大きく上回っていて、自主的に学習に取り組む児童が非常に多い。宿題をしっかりとやり遂げるために学年の実態に合わせた課題と量に配慮しながら、さらに充実した学習になるよう支援を図っていく。授業の問題にもう一度取り組んだり、内容を発展させたり、友達の学習成果を紹介したりする等、さまざまな学習内容を提示して、家庭学習の習慣化とバランスのよい教科指導の充実に努める。

○「授業を集中して受けている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の各設問において肯定的回答(97.3%, 90.5%, 78.2%)が、市の平均(90.8%, 83.2%, 71.0%)よりも6.5~7.3ポイント上回っている。気持ちを整え効率的な学習の流れをしっかりと身に付けて実践している姿がうかがえる。望ましい学習態度の定着と授業意欲の向上を図れるよう丁寧な指導を心掛ける。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」では、肯定的な回答をした児童が76.2%で市(62.6%)よりも13.6ポイント上回った。責任感が強く目的を達成する児童が多いことがうかがえる。常時取り組む当番や必要に合わせて活動する係の活動に対してやりがいをもって臨めるよう児童同士で認め合い、褒め合う関係を大切にし、活動の充実化を図っていく。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」に対して肯定的回答は、96.8%で(市は94.3%)非常に高い数値である。一方、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問の肯定的回答は52.4%と、市(54.3%)より1.9ポイント低い。話に耳を傾け聞き取る態度は良好だが、発言には苦手意識を感じていることが分かる。発言する内容や方法、発言しやすい雰囲気作り等に努め、前向きに取り組めるよう手立てを講じる。

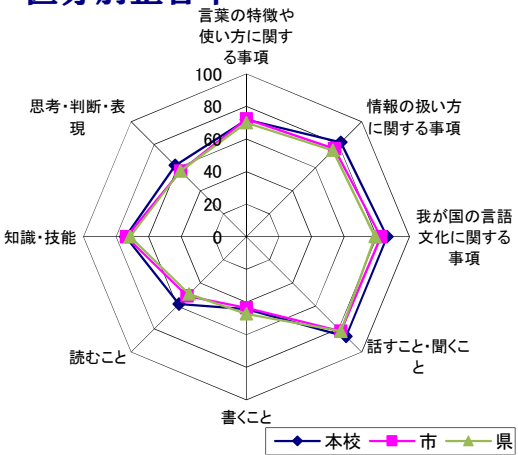
●「普段(月~金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などをみたり、聞いたりしますか」の設問で2時間以上と答えた児童の割合は55.5%で全体の半数以上であり、市(53.4%)よりも1.1ポイント高かった。どのような視聴内容なのか、どのような場の状況か等を確認しながら、時間の使い方や規則的な生活リズムへの影響について注意するよう声を掛ける。

●携帯電話やスマートフォンを保有する児童が69.3%いる中で、普段(月~金曜日)に通話やメール、インターネットに使用する時間が1時間以上である児童の割合が19.1%であった。市と比較しても同等な数値(保有:71.1%, 時間:20.0%)である。機器の利用方法や長時間の使用に関して、授業や学校で適切な使い方やきまりを確認し、家庭とも連携して周知徹底が図られるよう引き続き指導を続けていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.9	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	82.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	86.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	86.5	81.9	82.0
	書くこと	44.4	43.5	47.2
観点	読むこと	58.4	51.4	49.8
	知識・技能	74.1	73.6	71.3
	思考・判断・表現	61.9	57.1	57.2



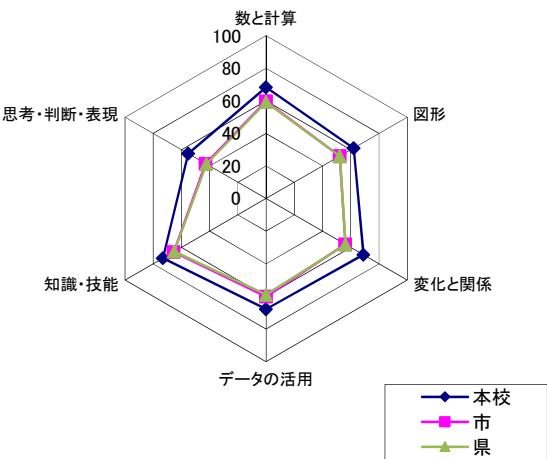
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は71.9%で、県平均と比べて1.9ポイント高い。 ○文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、73.4%で、県平均と比べると、7.7ポイント高い。 ●「改める」という漢字を書く問題ではよく理解がされていたが、「旗」という漢字を正しく書く問の正答率は、46.8%で、県平均より8.4ポイント低く、無解答の児童も17.3%いた。ある程度の既習漢字の習得はみられるが、苦手な漢字があったり習得にもばらつきがあったりと課題が見られる。	・物語や説明文を読み取る際には、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係に加え、文の書き出しと文末表現の関係などを含めた文の中の語句と語句との係り受けに注目させるなど、文の構成を捉える習慣を付けさせる。 ・自分で文章を書く際は既習漢字は漢字で書くよう声掛けし、教科書やドリルなどで読みや書き順などを自分で調べ、漢字を使う姿勢を育成する。また、「収める」「納める」「治める」「修める」などの同音異義語は、漢字のもつ意味を考えて使おうとする習慣を付けさせる。 ・自主学習などで漢字について調べている児童を称賛し、苦手意識がある児童にも興味をもたせるようにする。
情報の扱いに関する事項	平均正答率が82.0%で、県平均と比べると7.1ポイント高い。 ○漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかの問題に対しては、総画索引と部首索引の違いをよく理解している。	・漢字のもつ意味、構成、熟語など、日頃から児童が気軽に漢字辞典を活用できるような環境を設定することにより、様々な情報を漢字辞典から読み取る習慣を身に付けさせる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が86.3%で、県平均と比べると7.4ポイント高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかの問題に対しては、文章から状況を読み取り、適切なことわざを選択できている。	・時代とともに言葉が変化してきたことに気づかせ、自分たちの言葉への関心を深めるとともに言語文化としての古典に親しみ、受け継いでいく態度を育成する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は86.5%で、県平均と比べると4.5ポイント高い。 ○4つ全ての設問において県平均を上回る結果となった。特に相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる問いに対しては、正答率が94.2%と最も高く、県平均より3.3ポイント高かった。	・話の目的は何か、相手に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取ることができるよう、聞く姿勢や態度も含め、適宜声掛けをして児童に「聞く」意識をもたせる。 ・自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめる際には、「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いるようにすることで、異なる意見を自分の考えに生かせるようにする。 ・朝の会でのスピーチなどを活用し、人前で要点をまとめて簡潔に話をする機会を充実させる。
書くこと	平均正答率は44.4%で、県平均と比べると2.8ポイント低い。 ●4つ全ての設問において県平均を下回る結果となり、約20%が無解答であった。特に、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかを問う設問では、正答率が39.6%と県平均より6.3ポイント低く、文章全体の構成を捉えることが苦手な児童が多い。	・「序論―本論―結論」といった基本を押さえ、それぞれの段落にどのようなことを書けばよいのかを考えたり、自分の考えを一貫して述べていることなどに注目させながら作文指導を行う。条件を提示したり、文章構成のメモや学習の振り返りを生かしたりするような活動を取り入れる。 ・自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返る場を設定し、事実と考えとを明確に区別して書くよう例示したりヒントを出したりと教材や資料などを工夫する。
読むこと	平均正答率は58.4%で、県平均と比べると8.6%高い。 ○8つ全ての設問において県平均を上回る結果となった。特に、登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問いや、叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかをみる問いに対して正答率が70%を超えており、文章を読み取る力が身に付いている。	・登場人物の直接的な心情の描写だけではなく、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されていることにも注意し、想像を豊かにしながら読むことができるよう、意図的な発問や提示をするなど授業展開を工夫する。 ・文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えさせ、その際に叙述を基に、事実と感想、意見などとの関係を押さえることを意識させることで、文章全体の構成を捉える場を設定する。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	59.7	59.2
	図形	62.0	52.1	52.1
	変化と関係	68.9	56.1	56.3
	データの活用	67.8	60.1	58.9
観点	知識・技能	73.2	65.5	65.1
	思考・判断・表現	55.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

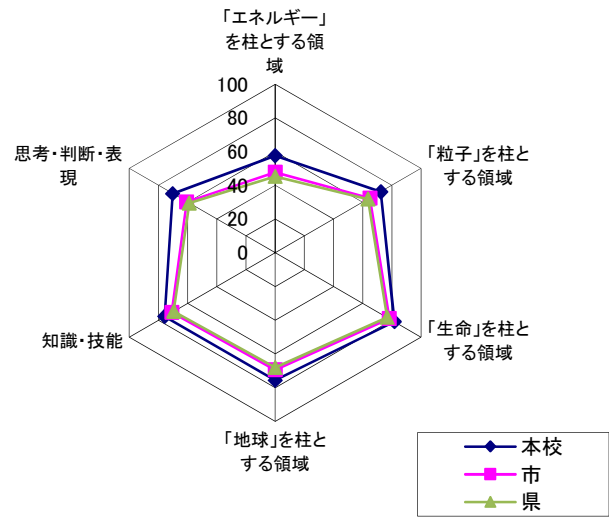
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は68.3%で県平均と比べて9.1ポイント上回る。 ○ほぼすべての問題で正答率は県平均より高く、数のしくみ、数直線上に表す分数、基礎的な計算についてよくできている。 ●概数について、目的に応じて見積もることができるかどうかをみる問題では、正答率が27.3%で県平均より0.5ポイント下回った。	・AIドリルや計算スキルなどを活用して、学習内容のさらなる定着に努める。 ・概数を扱う際には、身近な生活の中で概数に表すよさを実感させながら、それぞれの場面(目的)に適した概数の表し方について考えるようにさせる。また、「切り上げ」・「切り捨て」・「四捨五入」の違いや「○の位までの概数」や「上から○けたの概数」などの言葉の意味を正しく理解できるように、その都度復習することで定着を図る。
図形	平均正答率は62.0%で県平均と比べて9.9ポイント上回る。 ○ひし形を作図する問題では、正答率が85.6%で県平均を10.9ポイント上回っており、他の問題よりよくできている。 ●身近なものの面積の単位として正しいものを選んだり、面積の単位の関係を理解しているかを答えたりする問題では県平均を上回っているものの、正答率はそれぞれ43.2%、38.1%と低めである。	・図形の作図では、かきたい図形の性質を整理し、作図の道具とその操作でできることをつなげて理解させるようにする。 ・身近なものの面積を調べる体験的・調査的な活動を取り入れる。面積の見当をつけるために、面積を構成する辺の長さや単位に目を向け、その面積を体感させるような授業を展開する。 ・身の回りで用いられている様々な単位に興味をもたせ、具体物を用いた活動を取り入れながら単位のしくみについての理解を深めていく。
変化と関係	平均正答率は68.9%で県平均と比べて12.6ポイント上回る。 ○伴って変わる2つの数量の関係を、表を横に見て読み取る問題では、正答率が87.8%で県の平均を6.3ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する問題では、県平均を21.8ポイントと大きく上回るものの、正答率は46.8%と低い。	・2つの数量の対応や変わり方の特徴を見つけさせる際に、表を縦や横に見て成立する規則性に気付かせるなど、様々な見方でみることのおもしろさを感じさせるようにする。 ・日頃から、分かったことを順序立てて説明する機会を多く取り入れ、自分の言葉で表現する力を育てていく。また、分かりやすい説明、よりよい表現に高めるために、ペアやグループでの学び合いを設定したり、ICTを活用して自分とは異なる考えに触れる場を設けたりする。
データの活用	平均正答率は67.8%で県平均と比べて8.9ポイント上回る。 ○二次元表の読み方を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が10ポイント以上県平均を上回る。 ●2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では正答率は県とほぼ同じであるが、57.6%と低めである。	・算数だけでなく、他教科や各教育活動との連携を図り、疑問に思ったことや調べたいことなどを問題として取り上げる。さらに、「問題—計画—データ分析—結論」という統計的な問題解決を経験させるなど、実生活における算数の有用感をもたせる活動を仕組んでいく。 ・グラフの読み取りの技能にとどまらず、グラフを比較し、共通点や相違点を考えさせるなど、グラフを活用した指導を行う。また、理科や社会など他教科にも活用し、継続的・横断的に指導していく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	57.6	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	72.4	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	81.7	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	75.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	75.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	70.2	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は57.6%で、県全体と比べると12.3ポイントと大きく上回る。 ○電流が大きくなる回路について理解し、豆電球が明るく光る回路を選択する問題に対しては、平均正答率が74.8%であり、県平均より20.4ポイント大きく上回り、電流が大きくなる回路についての理解は高い。 ●「簡易検流計の針のふれ方」に関する問題に対しては、平均正答率が31.7%であり、県平均より8ポイント上回ってはいるが、正答率が3割程であり、無解答も10%であるため、定着度が低い。	・既習の内容について家庭学習、朝の学習タイムなどを活用し、さらに定着を図る。 ・仮説、実験、結果、考察の流れを意識した授業づくりに努める。また、考察や振り返りの時間を通して、科学的な思考を育てていく。 ・仮説や実験結果から考察することができるよう、グループでの話し合いや、学級全体で共有する時間を取ることで、深い学びになるようにしていく。 ・今回の簡易検流計の使い方のように、実験器具の使い方や、器具が示した結果から分かることの理解を深めるために、実際に器具に触れる機会や体験する機会を増やしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は72.4%で、県平均と比べると8.8ポイントと大きく上回っている。 ○金属を温めた時の体積の変化についてを記述する問題に対しては、正答率が77.0%で県平均より17、7ポイントと大きく上回っている。また、金属のあたたまり方を問う問題では、正答率が95%で県平均より8.2ポイント上回った。 ●「水のあたたまり方」を問う問題では、正答率30.9%で、県平均より0.8ポイントとやや上回ったが、正答率が3割程度であるため、水のあたたまり方への理解が低い。	・「粒子」の領域は、目に見えなかったり、イメージをもちにくかったりするため、児童が理解をしやすいように視覚的に確認できるような工夫をする。 ・ICT機器を活用して、イメージ図で表したり、実際にどのように変化しているかを動画で確認したりするなどして、児童の理解を深めていく。 ・水のあたたまり方については、示温インクだけでは対流の様子が確認しにくくなるため、対流の様子が明確に分かるように予備実験をし、使用する実験器具を選択するなど、実験方法の工夫をしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は81.7%で、県平均より4.9ポイント上回った。 ○季節の変化と動物の様子を問う問題では正答率が、89%を超え、県平均と比べて、7ポイント以上上回っている。 ●「人の体のつくりと運動」に関する問題では、正答率が85.6%と高かったが、県平均と比べると、1.8ポイント下回った。	・自然現象への気づきから問題解決によって理解が深まるように、日常的に動植物や自然現象に関わることを多くするようにしていく。 ・理科の用語を正しく扱うことができるように、学習した用語について説明をしたり、用語を使って結果をまとめたりする機会を増やしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は75.7%で、県平均より7.6ポイント上回った。 ○水蒸気の名称を答える問題では、県平均より13.6ポイント大きく上回っている。また、方位磁針の正しい使い方を答える問題では、県平均より14ポイント大きく上回っている。 ●「雨水の行方と地面のようす」での、排水口がどのような位置にあるかを答える問題では、平均正答率が50.4%で、県平均より12.2ポイントと大きく上回ってはいるが、正答率が5割と他の問いに比べて正答率が低い。	・日常生活と学習内容が結びつくように、既習事項が生活のどのような場面で利用されているかや学習したことがどのような場面で生かせるかなどを振り返るように努める。 ・児童がイメージをもちやすくなるよう、模型などを利用し、イメージが共有できるように場面設定をする。また、ICT機器を利用し、動画や画像で確認するなど、知識を補う機会を作るように努める。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の項目についての肯定的回答の割合が県の平均より12.7ポイント高く、自主学習が定着してきた様子がうかがえる。一方、昨年度は県平均を上回っていた「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の肯定的割合が県の平均より低くなっている。授業や自主学習の中で、間違えた問題を再度解き直す機会を設け、間違いの原因を自分自身で把握し、学んだことがより定着するよう支援したい。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の項目の肯定的割合が県の平均より高く、学習に対する前向きな気持ちが見られる。授業を進めるにあたり、より興味関心が高まるように身近な題材から課題を取り入れたり、問題解決的な学習を取り入れたりするなど、自力解決の場面を設け、学習が生活の中で役に立つという意識を高めることができるようにしたい。

○「授業を集中して受けている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的割合が県より高いことから、授業の流れを踏まえて安心して授業に取り組んでいる様子が見られる。今後も明確な学習の目標の設定や、協働的な学びの活動、充実した振り返りを実施し、児童がより学びを深めることができるよう教材研究等を入念に行いたい。

○算数、国語、理科、社会の授業で「授業の内容がよくわかるか」という項目についての肯定的割合が県の平均よりいずれも高かった。今後も本校が実践している教科担任制や少人数学習を通して、「わかった」「できた」と感じることができるよう授業を展開していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の項目についての肯定的割合が県の平均より高い。上記項目にあるように安定した学校生活の中で自分自身のよさにさらに気付き、高めることができるよう、称賛の機会を作ったり、教師からの声掛けをしたりすることで、自己肯定感・自己有用感を高められるよう支援したい。

●「しよる来のゆめや目標をもっている」に対する肯定的割合(82.9%)と県の平均より4.5ポイント下回っている。仕事が多様化している現代で、自分が本当にやりたいことを決めることができない児童がいるのではないかと考えられる。日頃から活動の際には目標をもって活動させるようにしたり、ゆめに対して今どのようなことができるかなどを考える時間を設けたり、キャリアパスポートの内容を充実させたりすることで、将来の自分についての期待感を高めさせたい。

●「総合的な学習の時間が好きですか」に対する肯定的割合が県の平均より15%下回っている。課題設定することに苦手意識をもっていたり、課題を解決していくことのおもしろさを感じられていなかったりすることが考えられる。「知りたい・調べたい」と感じる課題との出合わせ方を工夫するとともに、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の能力が児童に定着するような取り組みを考えたい。

宇都宮市立泉が丘小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に「話す・聞く」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。	4、5年ともに「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と感じている児童の割合が60%以上いる。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	本時のめあてに対するまとめを、児童と共に確認して板書し、一人一人の考えの変容や新たな疑問などを振り返り、自分の言葉で書く時間を設ける。	4、5年ともに「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」における肯定的割合がおおよそ80%以上おり、県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的割合が、4、5年ともに50%前後である。	人と関わり合うよさを感じ、積極的にコミュニケーションを楽しめる環境作りをする。	日頃からペアやグループで自分の思いや考えを伝え合う場面を設定し、「対話」に慣れていけるようにする。その際、一方的に意見を述べるだけではなく、相手の言葉に耳を傾け、理解しようとする気持ちを育成できるように教師が模範を示したり、上手に話し合う児童を称賛したりと児童が安心してコミュニケーションをとる雰囲気作りを努める。